

二階住まい

染谷 秀雄

東京に転居してあつという間の半年。住まいは実家と一つ家だが外階段で踊り場のない一直線の十六段のため、昇降の際は安全を考えなるべく手すりに手を添えながら昇り降りをしている。

実家は子供の居ない兄夫婦が将来のことを考えて世帯向けに賃貸しするため造った構造になっているので二人で生活するには事足りる広さである。ただ収納場所が少ないのがたまたに疵である。周辺は平地のため車を使う生活を捨て、買い物はもっぱらカートを曳いて出掛ける。運転免許証の書換の年を迎える今年は免許証返納も考えている。誉田の一軒家の時は家周りのことをやるが多々あったが、今は生活圈が二階に移りその必要もなくなってきた。でも日に一度は一人住まいの階下の兄の様子を見に行きながら話をして、仏壇に線香を上げる生活は変わらない。引越すとき幾ばくかの草花や植木類を持ってきてあるので、狭いながらも庭の草花の状況を眺める日々だ。二階は日当たりがよいせいか明るく冬は意外と暖かい。当初、エアコンだけでは寒いのではと思っていた矢先、タイミングよく通販のチラシが送られてきて高機能の電気ストーブを買ってしまった。しかし二階住まいをしてみると日当たりがよいせいか本格的な冬を迎えても部屋の寒さを感じることもなく、一度も使わず冬を越してしまった。物を少なくする生活をしなければならぬのに買うことが好きな性分から反省の日々だ。

これから夏にむかう生活はどうなるのか、また買いたくなる物が増えはしないかと一抹の不安はある。